

私たちの暮らしの中で、税金はいつも静かに存在している。コンビニで飲み物を買えば消費税。お金を使ったり稼いだりするたび、税金を払っている。私は正直に言うと、「なんでこんなに取られるんだ」と思うこともある。けれども、私は最近、税金を「取られるもの」ではなく、「未来を支えるための参加費」として考えるようになった。

たとえば身の回りにある病院や消防、図書館、道路や信号などがある。自分では気づきにくい、私たちが安心して暮らせる社会の裏側には、必ず税金の支えがある。つまり、税金は、日常の「当たり前」を裏から支える力だ。それでも、近年、選挙で「消費税廃止」を掲げる候補者が増えてきた。たしかに消費税は、収入に関係なく全員が払うため、生活が苦しい人ほど重くのしかかる。だから、一部では「消費税は不公平」「なくした方がいい」という声があがるのも理解できる。

けれども私は、それでも税には意味があると思っている。むしろ、そういう不公平さがあるからこそ、どうすれば「みんなにとってより良い税のあり方」になるのかを、政治や選挙を通じ話し合っていくべきだ。税をなくすのではなく、より良く整える。それが本当の「政治の役目」であり、私たち一人ひとりの関心から始まるのだと思う。税金を払うことは、自分のためだけじゃない。まだ生まれていない子どもたちの未来、今助けを必要としている誰かの命、安心して年を重ねられる社会の土台をつくるためにある。だから私は、税金「損」とは思わない。確かに負担はある。でも、それ以上に、得られるものがあると信じたい。

私たちはみんなでこの国を動かしている。税金はその「動かすエネルギー」であり、同時に「支え合いの証」でもある。選挙に行くのも、税を納めるのも、「この社会に参加すること」の一つのかたちだ。文句を言うだけじゃなく、納得できる社会にしていく責任が、私たちにはある。だから私はこれからも、税について考えたい。消費税などの税が高すぎると思えば、それをどう改善すべきかを調べ、選挙で意思を示す。自分の払った税が、誰かの支えになっていると想像する。税金は重い。でも、それは「未来を背負う重さ」だ。私はその重さを、無駄にせず、意味のあるものにしていきたいと思っている。